

令和五年 春の課題作文・読書感想文

〈塾長講評〉

AIが著しい進化を遂げています。最近ではチャットGPTという対話型のサービスが話題に上りました。まだ課題は多いものですが、ピーチ原稿や小論文などを人に代わって作成できるようになってきているのです。二〇一八年春の課題文「AI時代の到来を見据えて」の中で「二〇四五年にはAIが人間の知能を超えることになる」という専門家の見解を引用しましたが、現実の進化のスピードはそれを上回っているようです。人間ならではの想像力や表現力とは何なのかについて改めて考えていかねばならなくなってきたと感じます。

さて、今回も中学生は課題作文、小学生は読書感想文に取り組んでももらいました。中学生には、年賀状発行部数の減少というニュースを踏まえて日本の慣習や風習の変化と継承というテーマで自分の意見を述べてもらう形式としました。また、小学生には、当塾の推薦図書やそれ以外の本から一冊を選び、読書感想文を書いて提出してもらっています。

課題作文にも読書感想文にも唯一の正答などは存在しません。だからと言って自分の書きたいように書いていいわけでもありません。「能」の世界に「守破離」（しゅはり）という言葉がありますが、ある程度の型を知った上で自分らしさが滲（にじ）み出る表現を目指してください。特に小学生の読書感想文であらすじを長々と書いている作品が目立ちました。「感想文を書くのが苦手です」という生徒

やその保護者様はぜひ教室長にお声掛けください。「こんな形で書いてみるのはいかがでしょうか」という提案が受けられます。そして、そのような書き方をマスターしていけば書くのが苦にならなくなるはずです。

前置きが長くなりましたが、優秀作品の紹介です。まず、小学生の金賞受賞作品ですが、「言葉屋―言箱と言珠のひみつ―」を読んだ感想文でした。主人公が「言葉を口にする勇氣、口にしない勇氣」を提供する言葉屋で修業して成長していく物語でしたが、自分自身の経験を振り返りながら学びを得ようとしている点が評価されました。

次に中学生の金賞受賞作品二つです。一つ目の作品では、ニュースサイトの調査を引用しながら慣習や風習にこだわりすぎるのは時代の趨勢(すうせい)とは違うと主張し、大切なのは形ではなく、心であり本質であると結ばれていました。もう一つの作品では、日本のお祭りに海外からの観光客も多数集まってくるという事例を挙げながら、慣習や風習は日本らしさや自分のルーツを知る貴重な機会にもなるので、形を変えてでも受け継ぐべきだと述べられていました。いずれも説得力に富む力強い作品であったと思います。

最後になりますが、当塾では全講師が中学生の課題作文に取り組んでいます。「学ぶ」の語源は「真似ぶ」ですので、ぜひ生徒や講師の優秀作品に目を通して真似たいと感じるところを探して頂きたいと思います。そして、そうやって見つけた視点や表現を今後活かしていただければ幸いです。